



た や しゅう すけ
田 矢 修 介

けん と く ら ぶ
県都クラブ

市民の生命を守る津市の救急体制から

問 市民が期待する新たな津市夜間応急診療所の開設について、スタッフ体制の強化は図られるのか。また、初期救急医療機関として症状に応じた検査及び処置に必要な器具の充実が必要であると考えている。

利便性や二次救急医療機関との連携を考慮した開設場所、開設までのスケジュール及び日曜・祝日・年末年始の診察は。小児外科の救急体制も強化を。

答 現行は全て委託職員であるが、津市応急診療所整備検討会からの提言書の中でも、経験豊富な正規の常勤看護師を求める提言をいただいております。関係部局と調整を図っていきたく。また、心電計等の器具や尿検査等が必要との提言もあることから、必要な検査・器具等を備えていきたい。開設場所は、市の中心部で二次救急医療機関との連携もとりやすい県営住宅跡地とし、平成28年度中の供用開始を目指している。また、日曜、祝日、年末年始にも診療ができるよう医師会等と調整を図っていく。

小児外科は、津市だけでなく県下の大きな課題であるが、三重県保健医療計画において三重大学附属病院などが子ども病院群と位置付けられ、今後体制を強化すると掲げられている。

●その他の質疑・質問●

○在宅医療の充実により自宅で暮らす安心を

- ・地域包括ケアシステムにおいて、生活支援サービスの適切な提供には在宅医療が要となるが
 - ・在宅での褥瘡・嚥下障害による低栄養・感染症対策等、予防とリスク管理への課題認識は
- 津市の将来財政は大丈夫か
- ・借金による将来世代への負担先送りになっていないか など



▲強く望まれる日曜・祝日・年末年始の午前と午後の診療



わ だ か し お
和田 甲子雄

に ほんきょうさんとう つ し き だん
日本共産党津市議団

災害に強いまちづくりについて

問 災害対応力強化集中年間が平成25年度で終わるが、南海トラフの被害想定、温暖化による集中豪雨、竜巻、強力な台風などからさらなる減災対策が必要だ。地域防災計画、津波避難計画が策定されたが、計画だけでは対策が進まない。終わりなき防災対策を進めるための財源と防災体制の充実が必要。土砂災害について、警戒区域の指定と周知、避難の在り方を明確に。

答 災害対応力強化集中年間、津波対策の充実と地域防災計画の徹底見直しを特命とした臨時的な措置であり、平成25年度で終了するが、来年度以降やらなくてはいけないことに対応できる人員を改めて計上し、防災対策の推進に取り組む。

土砂災害警戒区域は、県が指定を行うが、美杉町多気地区と伊勢地地区は、平成25年度内の指定に向けて準備中である。八知地区は平成26年度内の指定に向けて調査しており、今後も計画的な区域指定に向け、地域の理解を得ながら進めたい。指定後は速やかにハザードマップ等を作成し、地域の学習会等で周知に努めるとともに、中山間地域の土砂災害の避難勧告が適正に行えるよう、基準をつくっていきたく。

●その他の質疑・質問●

- 災害に強いまちづくり
- ・避難所開設と避難勧告見直しと国道23号に津波避難用の歩道橋の設置を
 - 公共施設のトイレの洋式化、バリアフリー対策を
 - 河芸町杜の街に小学校建設を
 - 団地の側溝の劣化対策、降雨量に対応できる側溝の整備を
 - 千里ヶ丘自然公園側に歩道の設置と街灯を など



▲公共施設には誰もが使いやすいトイレの早期整備を